

第12号

# すだち

発行：  
高次脳機能障がい  
徳島家族会「すだち」  
住所：  
徳島市新浜町3丁目  
（岩垣方）1-60

## ～自立の支え地域社会とネットワーク～

1月22日、高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」の第5回総会が徳島県立障害者交流プラザ（ボランティア室）で開かれました。

5回目となる総会には、当事者・家族ら27名と、顧問の北出修子医師と南川貴子賛助会員の出席のもと10時に開会しました。三木副会長の司会・開会あいさつで始まり、岩垣会長から総会挨拶、続いて北出先生の挨拶、永廣顧問からのメッセージが代読され、続いてNPO法人どりーまあサービス理事長の山口浩志氏、石元徳島県精神保健福祉センター所長からのメッセージが代読されました。続いて事務局から一年間の活動報告と、今後の活動案、財政案が提起され、参加者の全員で確認し、最後に今年度の役員を確認し終了しました。（会長挨拶、永廣顧問等のメッセージを2ページ掲載）今年度の役員、岩垣啓路（会長）三木茂（副会長）岩本一男（事務局長）阿部秀忠、外山秀二、林裕子の各氏を確認し、総会の最後に、南川先生のバイオリンの演奏で「七つの子」「浜辺の歌」「ふるさと」の三曲を力強く合唱し第5期の活動に踏み出しました。

事務局報告では、昨年3月11日の東日本大震災についても冒頭「東日本大震災は、甚大な人的被害



挨拶する岩垣会長

と、建物の倒壊、焼失、流失と大きな被害を出し、又原子力発電所の事故による被害も重なり、いまだに避難生活を余儀なくされている方もたくさんいます。こうした災害に直面した時障がい者はどう対応していけばいいのか、今回の災害を期に家族会としても一考することが必要」と記され、家族会としても今後の活動で障がい者と災害について考えていく必要性が示されました。また廊下受付前には、会員の福永喜久夫氏が訓練で作りに上げた切り絵等が展示されていました。

### === 訓練作品展示会のお知らせ ===

福永喜久夫会員が訓練のためはじめた、切絵等の手工芸品展が、(独)自動車事故対策機構主催で3月6日から6日間、ヨンデンプラザ徳島（徳島市寺島本町）で展示開催されます。同作品展は、3月21日からは徳島大学病院でも展示されることが決まっています。ぜひ時間を創って御観覧ください。なおこれら展示に先だって「闘病の3人が合同作品展」の見出しで、徳島新聞で報道されましたが、ギャラリーカフェ「世界一小さな美術館」において2月15日から同29日まで作品展が開催されました。この展示会には加藤ゆかり会員の切絵も展示されていました。

**＝第5回定期総会の開催にあたって＝****家族会活動を全県に広めよう**

==岩垣家族会会長==

<前略> 徳島家族会「すだち」も、設立後4年が過ぎました。その間、徳島大学医学部の永廣教授を始め、賛助会員の方々の絶大なるご支援とご協力、並びに(社)日本損害保険協会様の温かい資金助成、それと、会員の方々の並々ならぬご協力とご支援により、いよいよ5年目に入ることとなりました。

高次脳機能障がいにつきましては、テレビや新聞を始め、各地で様々な講習会や研修会を通じて周知が図られ、社会でも、ようやく認識、理解が深まってきているように感じられます。同時に、障がいを負った方々が、それを乗り越えて、社会で輝かしい実績をあげた事例も、数多く伝えられております。

徳島家族会「すだち」では、昨年、毎月第3土曜日に、定例の交流会を開催し、多くの会員の方々の交流が進みました。まだまだ県下には、この障がいをお持ちの多くの方々が、おられると思われまます。少しでも社会の認識が深まり、理解が進むように、当家族会としても県下で広く活動の輪を広げてゆきたいと思ひます。<以下略>

=====

**障がいに偏見や差別のない徳島を**

徳島県精神保健福祉センター所長石元康仁

高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」が第5回総会を迎えられたことを、心よりお喜び申し上げます。平成19年3月に、徳島大学の永廣教授が<高次脳機能障害を考える研修会>を開いたのが、徳島での高次脳機能障害者支援の始まりでした。当時は、本当に何もないゼロからの出発でした。岩垣啓路さんもこの研修会に参加されていたと記憶しております。平成20年1月27日には、岩垣さんを会長に高次脳機能障害徳島家族会が結成されました。1年たらずの短期間に家族会ができたことに驚かされたと同時にみなさんの熱意を感じました。私も県民に高次脳機能障害について知ってもらうため、正しい知識を持ってもらうために県下を回り講演しました。その先々で家族会の会長さんはじめ会員のみなさんには、大変たすけられました。一般の県民の方々に障害を正しく理解して頂くには、私のような専門職が話をしても限界があります。明るく、誠実に生き生きと活動されている当事者やご家族の皆様のお姿を、自分の目で、直接見ていただくことが一番の説得力になります。どうぞ今後も、障害を持つ県民の皆様が当たり前暮らししていける、偏見や差別のない徳島を実現できるように、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。高次脳機能障害徳島家族会「すだち」のご発展をいつもお祈りしております。

**有用な検査の検討を**

徳島大学病院脳神経外科教授永廣信治

昨年の日本は、東北地区の大震災による未曾有の大災害や、相変わらずの政治の混乱などで大変な年でしたが、今年は「なでしこジャパン」の活躍のような明るい話題がたくさんあることを願っています。

徳島や四国における高次脳機能障がい支援のネットワークの構築に関する仕事に携わって、早や5年が経過しました。その間に、定期的な講演会や講習会・勉強会の開催などを通じて、中核支援施設(徳島大学病院)や支援コーディネーターの指定、関連する医療施設、スタッフや県・自治体との連携、家族会の方々と交流など、支援ネットワークの構築が部分的にはなされてきたと思います。しかし、まだまだ皆様の満足のゆくようなシステムにはなっていない部分も多く残っています。

徳島の高次脳機能障がいのリハビリテーションや相談支援に関わっている医療関係者の方々は、大学内で1～2月に一回の高次脳機能障がい検討会を行っています。そこでは、各施設の経験や相談事例について勉強しながら考えるのですが、本当に各事例ごとに症状の種類や重症度、家庭環境などがさまざまであり、どのような支援プロセスが望ましいのか、悩むことが多々あります。また、まだまだ解決されていない点も多いことを実感します。検討会では高次脳機能障がいを適切に診断し、またリハビリテーションの効果などを判定するのに有用な検査法(高次脳機能障害スクリーニングテスト、徳島版)を作成し、現在どの程度有用かを検証している段階です。30分くらいの検査時間ですので、有用性が確認できれば全国的にも使用されるのではないかと期待しています。

=====

**家族会活動に刺激を受ける**

徳島県社会福祉士会山口浩志

この度はすだち会様の第5回総会にあたり、役員の皆様方はじめ会員の皆様方に対しまして、私たち徳島県社会福祉士会として敬意を表しますとともに、これまでの福祉士会への御理解をいただき活動にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。私は、第2回総会のことから、社会福祉士会相談活動委員会活動の一環で勉強させていただきお仲間に入らせていただきましたが、その頃から皆様のこの会への思いや熱意には大変刺激を受けてきました。本日は残念ながら仕事の関係で参加することができませんが、今後も徳島県社会福祉士会として家族会様に対して出来ることがありましたらお手伝いさせていただきます。

## 障害者は行動が遅い

### 躊躇無く手助けを

1月8日、美波町コミュニティーホールで、NPO法人徳島県民活動プラザ主催の講演会が開かれました。講演は「東日本大震災から考える津波防災対策」(高橋智幸関西大学教授)と「かならず来る巨大地震・巨大津波」(岡村真高知大学教授)の両氏の講演が行われ、170名の方が真剣に聞いていました。講演後出席者と両氏の対話もありました。講演では、長い揺れは大きな津波を想定し避難する事。日頃に避難地と道順を認識しておくこと。障がい者・高齢者は素早い行動が困難なので躊躇無く手助け。持ち物は最小限度に感じましたし、家族会としては、集団行動が不可能なため、各人が危機意識を持ち



緊急時の素早い対応が出来るよう日頃の心構えが必要であることを感じました。(三木茂)

### 「会への意見、行政への要望」今後の活動に生かす

2月19日に開かれた、家族会交流会では、会員から行政への要望や会への意見を出し合ってもらいました。時間の関係で出席者全員からの意見を聞くことはできませんでしたが、会として今後の取り組みで制度的な学習の必要性、また県をはじめとした行政に対して要望していく必要性のある意見等が挙げられていました。会としては今後こうした意見を参考に会の活動を進めていきたいと思えます。

## 活動経過

### 1) 月例交流会の開催状況

定例交流会議を第三土曜日にして、毎月10時から2時間の交流会議を開催してきました。

#### ① 社会福祉士の参加を得て

2月19日、社会福祉士昼間さんの成年後見人制度、福祉サービス、支援・援助の在り方のアドバイスを受けました。

#### ② 心の安らぎバイオリン演奏

3月19日に行われ南川先生からバイオリン演奏が披露され、索漠とした療養生活に心安らぐひと時を送る。

#### ③ 県精神福祉保健センター所長の出席

4月16日に開かれ、石元徳島県精神福祉センター所長の出席、高次脳機能障がいの診断の変更について学習。

#### ④ 和菓子造りに挑戦

5月21日に障害者交流プラザ調理室で、和菓子造りに挑戦しました。

#### ⑤ 川柳に挑戦・・・みな上手

6月18日に開かれ、川柳に挑戦しました。



#### ⑥ 短歌にも挑戦

7月16日に開かれ、社会福祉士会から篠原氏の参加出席、短歌に挑戦しました。

#### ⑦ 成年後見制度

8月20日に開かれ、社会福祉士会大下直樹氏の「成年後見制度」説明をうける。

#### ⑧ 5月和菓子造り今度は洋菓子に挑戦

9月17日会議では、洋菓子造りに挑戦、2種類の洋菓子を作りました。

#### ⑨ 新会員さんを迎えて

11月19日交流会は、10月に新しく加入された3組の参加と、北出医師と南川先生の参加を得て当事者の近況報告。

次回家族会交流会は、3月17日午前10時から県立障害者交流プラザで開催



## 2) リハビリテーション医療講習会

10月16日(日)高次脳機能障がい徳島家族会(すだち)主催の徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会が、徳島大学医学部臨床第二講堂にて当事者・家族会をはじめ医療関係者等130名余りが参加し開かれました。なおこの講習会は(社)日本損害保険協会の助成事業として開催され、合わせて徳島県徳島県社会福祉士会、徳島県医療ソーシャルワーカー協会、徳島県精神保健福祉士会、徳島県社会福祉協議会の後援を得て開催されました。

## 3) 脳外傷の会第11回全国大会

「信州発元気を出そう!脳損傷フォーラム～自立の支え地域社会とネットワーク～」をスローガンに日本脳外傷友の会第11回全国大会が、10月15日志賀高原(長野県志賀高原総合会場98)に300人を超す会員、関係者が集い開催されました。また全国交流集会在14日の夜志賀レークホテルで開かれました。前日14日夜の交流集会上では、コーラス大好き女性合唱団のコーラス、オカリナの演奏等もあり交流を深めました。

東川会長のあいさつ、又来賓者のあいさつに続いて「当事者活動奨励賞授与式」が行われ、福永喜久夫さん(すだち会員)が表彰されました。

## 4) 「うどん交流会」12月(第10回)定例交流会議

12月の定例交流会議は、「うどん交流会議」と名付けて、かねぎん坂野たらいいうどんで開きました。会議には当事者、家族合わせて23名の出席と、香川家族会の相原副会長が当事者と一緒に参加してくださいました。

## 5) 季刊誌の発行

9号・10号・11号の定期発行

## 6) 役員会議・・・定例交流会と合わせての開催と必要により随時開催し、運営を図ってきました。

## 7) 支援共同の取り組み

- ① 東部地区民生委員児童委員協議会 2月
- ② 三好保険所主催高次脳機能障害講習会 2月
- ③ 高次脳機能障がい講習会 2月26日大阪開催
- ④ レスポワール夢ガーデン記念式典 11月
- ⑤ 高次脳機能障がい支援普及研修会 12月
- ⑥ 「心をつなぐ希望の歌」当事者一ノ瀬 12月
- ⑦ 「必ず来る対地震津波」どう対応するか 1月

## 今後の取り組みに

### 1、交流会(会議)の引き続き定例化と内容充実

1) 「定例交流会議を設定し集まりやすい状況を作り出す。今年も引き続き毎月、第3土曜日の10時～12時までを定例家族会の時間として交流会議の定例化を進めて行くことにします。

2) 会場は、同一会場を確保し、会場が確保できない場合は、事前に代替会場を連絡します。



- 3) 定例会日において、特段の事案協議がある場合は事前に連絡します。
- 4) 定例会にあわせて、役員会議も定例化します。
- 5) 交流会議を定例化、合わせて高次脳機能障がいについての相談の場にします。
- 6) 新加入者も参加できやすい環境を整備、自発的な訓練の場にしていきます。
- 7) 障がい者に係わる制度の学習を企画します。

## 2、会員間の懇親交流会を開催。

- 1) レクリエーション、食事会と合わせた会員の懇親交流会を春、秋の年2回企画して行きます。
- 2) 各班の会議、交流の場を企画し、地域での相談活動、会員間の交流を図っていくことにします。
- 3) 全国会への積極参加、
  - ①全国会議には、準会員資格で加盟しています。全国会主催の行動、会議に積極的に参加します。
  - ②全国会議主催の行動に、参加出席者に会として費用面で支援をする事にします。
    - i、2012年の脳外傷友の会全国大会の開催富山と決定しています。
    - ii、今年4月14日「第2回ケアリングコミュニティ秋田大会」開催されます。

## 3、関係行政機関等との懇談会を充実させる。

- 1) 家族会として行政に対する要望、意見を集約し、県を始めとして関係行政機関に懇談を申し入れます。(高次脳機能障がいの啓蒙と支援の充実)
- 2) 今年は、関係行政機関等との懇談時の事案としては、「親なき後の対策」を要望項目に入れて懇談することにします。

## 4、季刊誌の発行

- 1) 季刊誌「すだち」を3月、7月、11月の定期発行とします。
- 2) 期間中特記すべき事案は号外を発行。
- 3) 毎月の交流会の情報を会員さんに伝える工夫をします。